

① 令和5年度 東北地方整備局 工事事故発生状況

令和5年度 東北地方整備局 工事事故発生状況【経年比較】 別添 R6.3.31

① R5事故発生状況(R6.3.31速報値)

- ・R5年度の事故件数は93件
(前年度より2件増)
- ・労働災害は38件
(前年度より4件減、前年度比10%減)
- 死傷者数は37人 うち死亡者は2人
(前年度より10人減、うち死亡者1人増)
- ・物損公衆は54件
(前年度より8件増、前年度比17%増)
- ・死傷公衆は 1件
(前年度より2件減)

② 工事事故件数推移(H25～R5)

・令和5年度は過去10ヶ年平均110.9を下回った。過去10年間含め3番目の件数

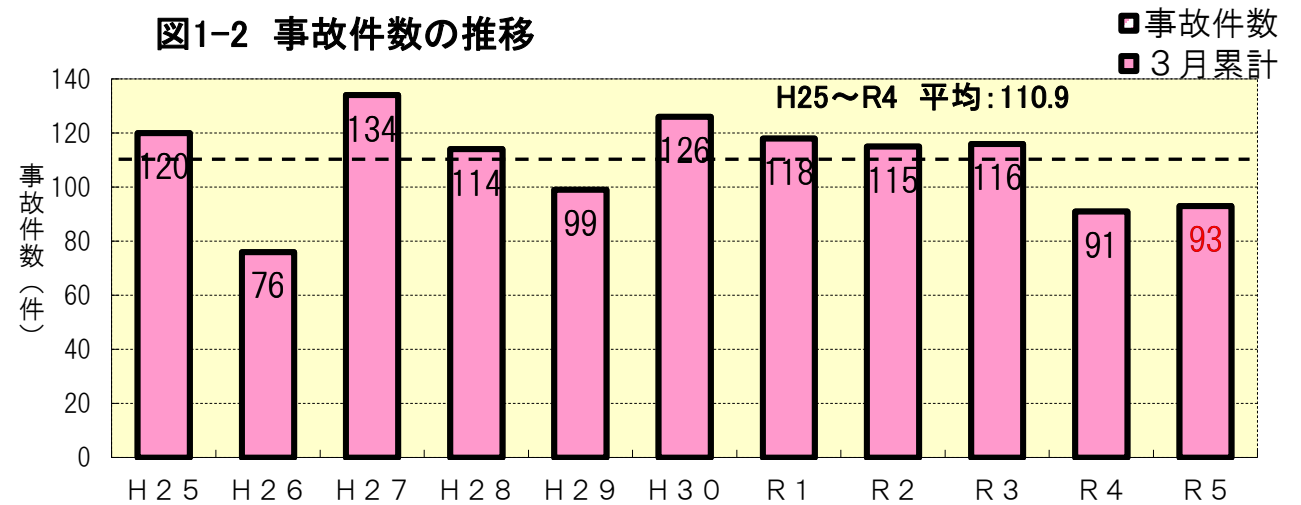
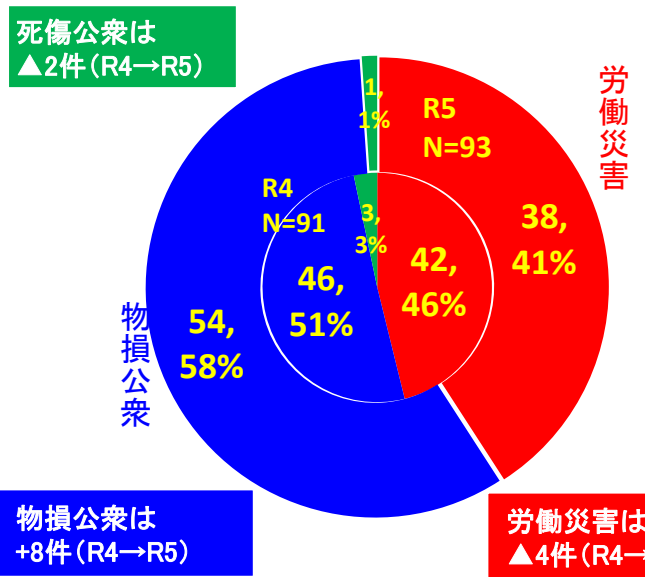


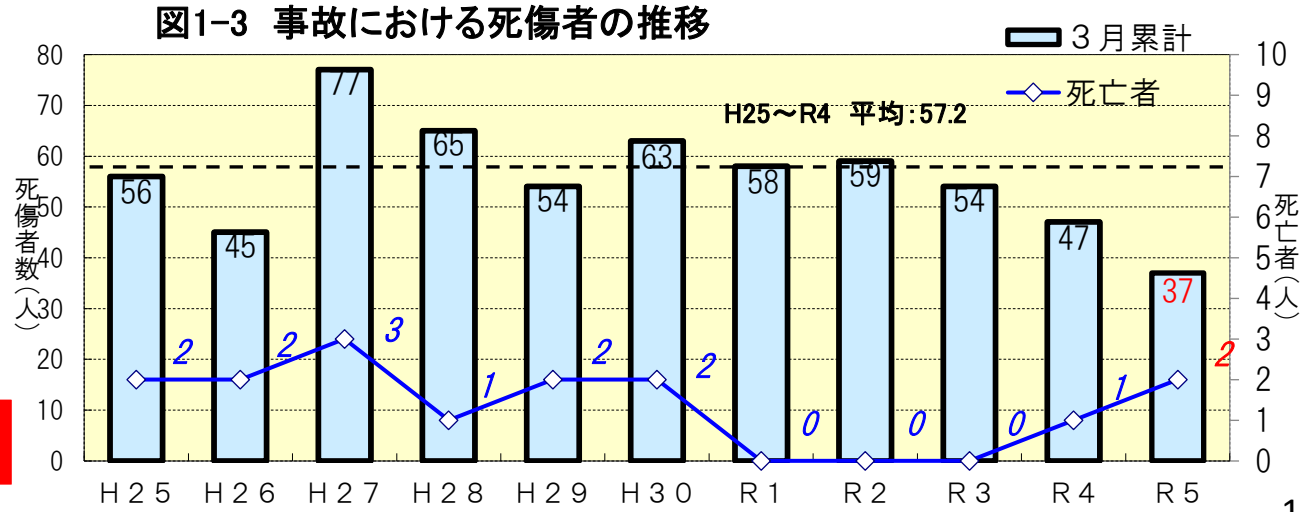
図1-1 事故件数内訳比(R4～R5)



※港湾空港分除く

③ 死傷者数、死亡者数推移(H25～R5)

・令和5年度は過去10ヶ年平均57.2人よりは減少
・工事事故による**死亡者発生(2人)** ※自然災害等による死亡は除く



令和5年度 東北地方整備局 工事事故発生状況【月別推移】

④ 月毎の発生状況(R6.3.31速報値)

・令和5年度は、7月、11月に事故件数が多くなっている状況

図2-1 月別(累計)事故件数(H30～R5)

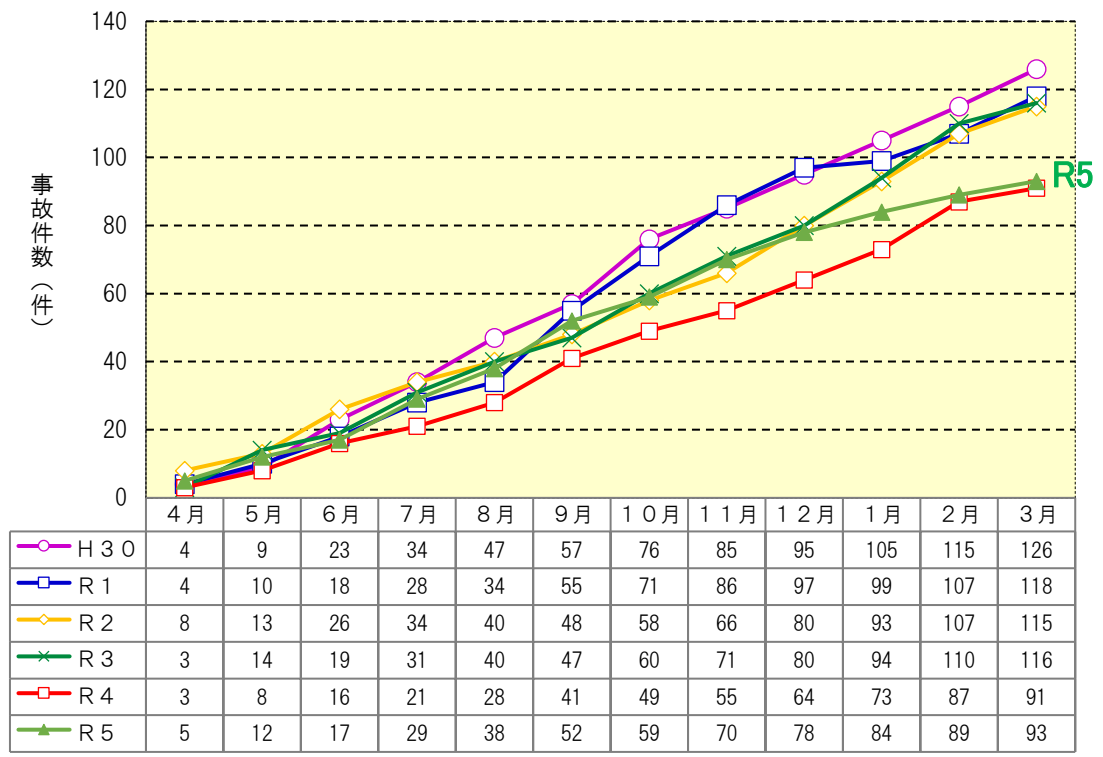
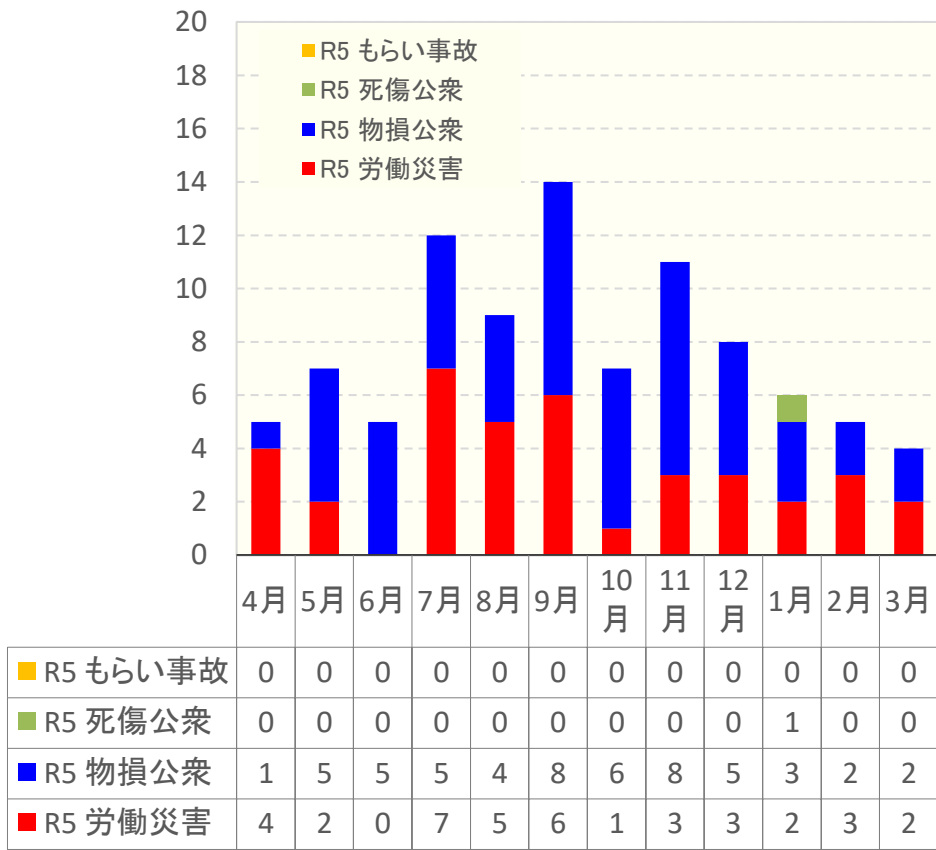


図2-2 月別種類別事故件数(R5)



【補足】

5～7月: 例年、工事が本格的に動き出す時期(本施工に入る。新規入場者多い。連休明けなど)

9月: 例年、残暑や夏季の休み明け等で疲労が残りやすい時期

1～2月: 例年、除雪作業における転倒や物損が増える時期、また工期末などの繁忙期が重なる時期。

令和5年度 東北地方整備局 工事事故発生状況【県別】

⑤ 県別の発生状況

- 被災3地域で件数を多く占めていたが、東日本大震災の復旧・復興事業完了を契機に件数が減少している。
- 令和5年度は県別での件数の差が少なくなっている。【最多件数県-最小件数県】R元:38件 → R5:17件
- 宮城県の本物損公衆が8件増(うち公共物損傷が6件増)となっている。

図3-1 地域別事故状況(R元～R5)

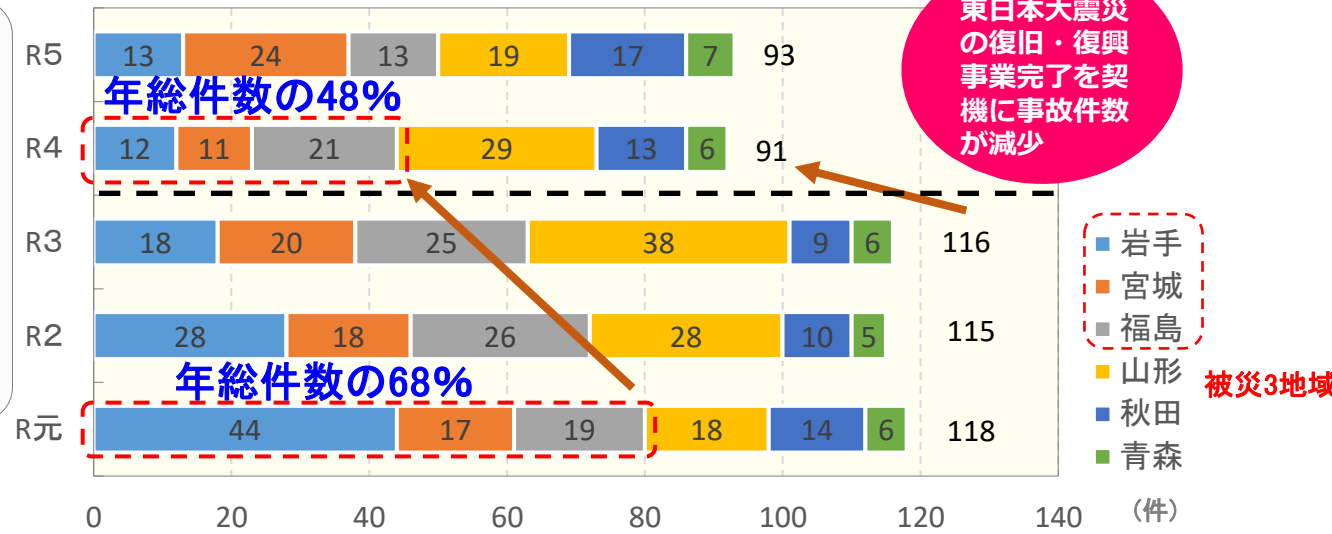


図3-2 県別事故割合(R4,R5)

R5(外円): N=93
R4(内円): N=91

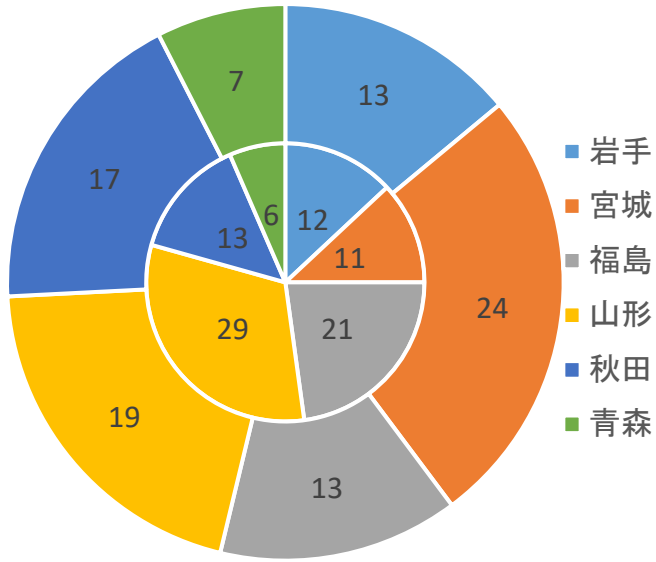
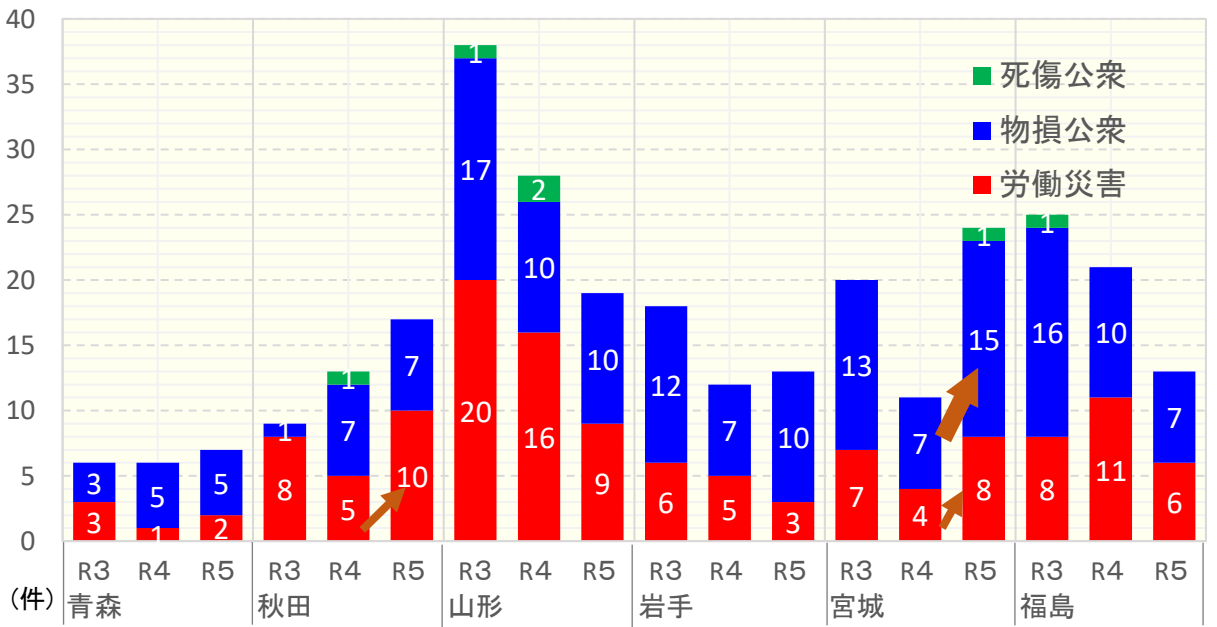


図3-3 県別種類別事故発生件数(R3～R5)



令和5年度 東北地方整備局 工事事故発生状況【災害分類別】

⑥ 労働災害、物損公衆毎の事故傾向

- ・令和5年度は、労働災害及び物損公衆共に過去10カ年平均を下回る件数となった。
- ・近年12～2月の物損公衆の事故件数は高めとなっている。
- ・工事稼働期間の平準化により、労働災害の事故発生件数の月別の各差は小さくなっているが、毎月工事事故は発生しているので通年で注意必要。

図4-2 労働災害の事故件数推移 (H25～R5)

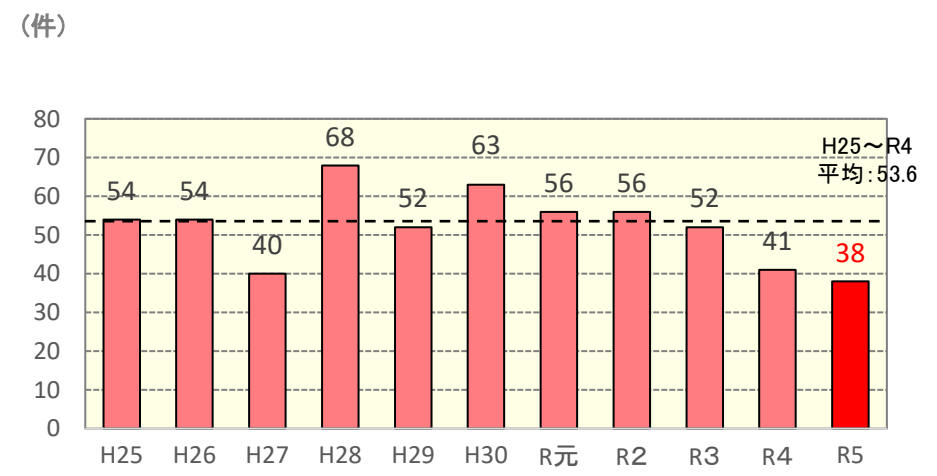


図4-3 物損公衆の事故件数推移 (H25～R5)

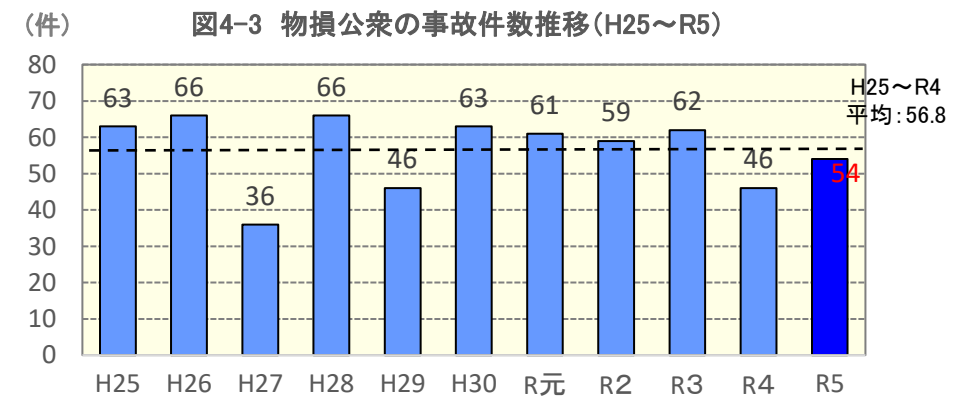
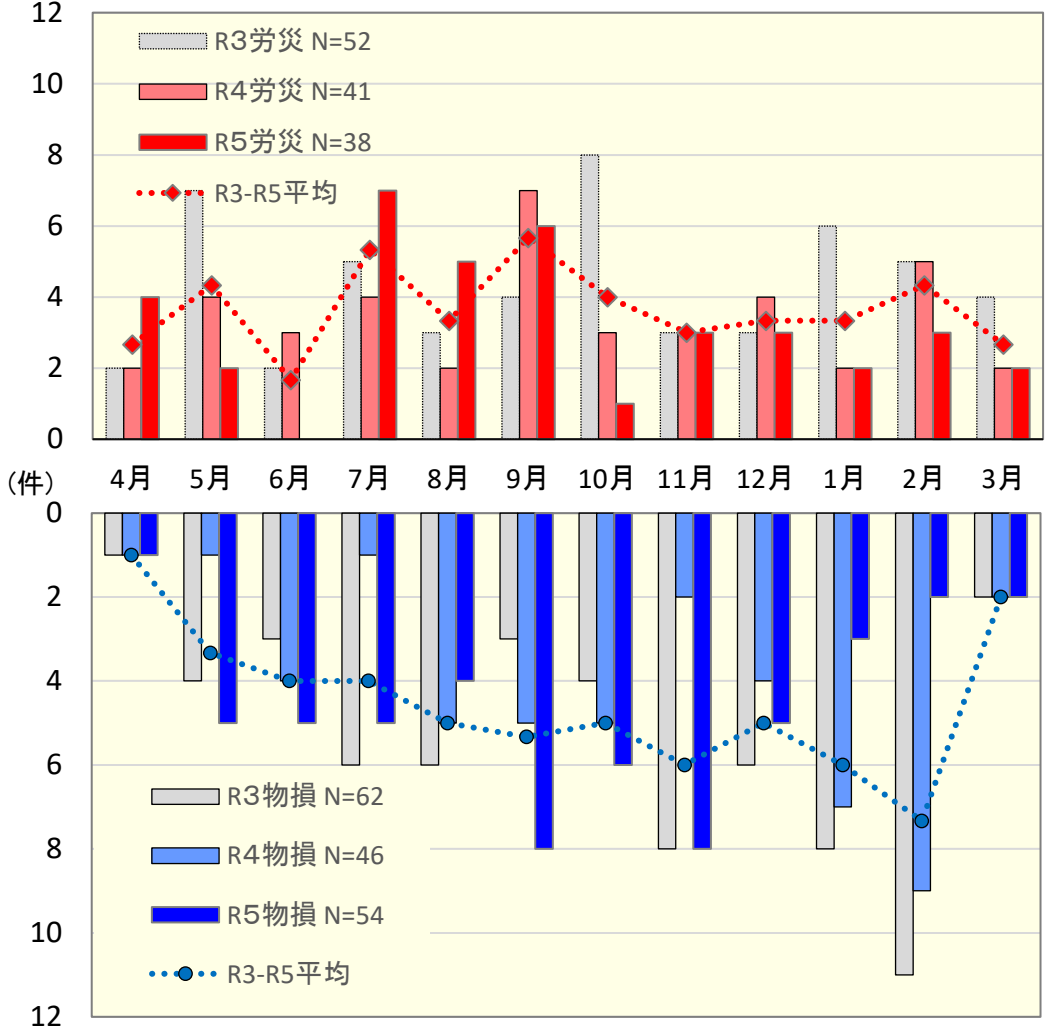


図4-4 月別労働災害・物損公衆別 発生件数 (R3～R5)



令和5年度 東北地方整備局 工事事故発生状況【労災-型分類別】

⑦ R5 労働災害の型分類別件数 (死傷公衆、もらい事故を含む)

- ・機械・工具等取扱の不慣れ・操作ミス等による事故件数が多い
- ・過去発生件数が多い、挟まれ、墜落・転落、転倒による事故も多く占める
- ・中傷以上(全治1ヶ月以上)の事故が半数以上占めている

図5-1 R5 労働災害の型分類別割合 N=39件

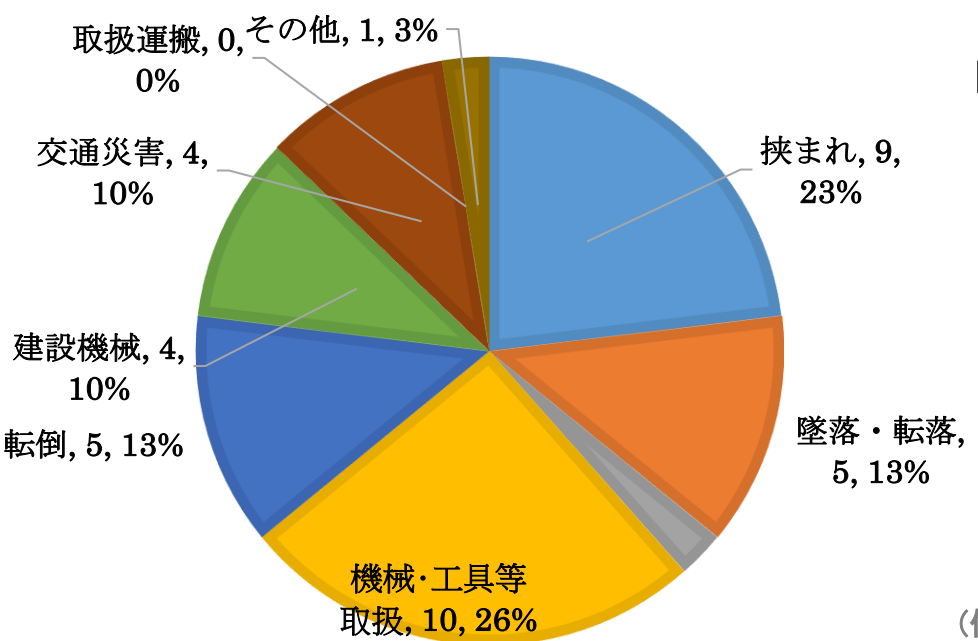


図5-2 R5 労働災害の型分類別件数

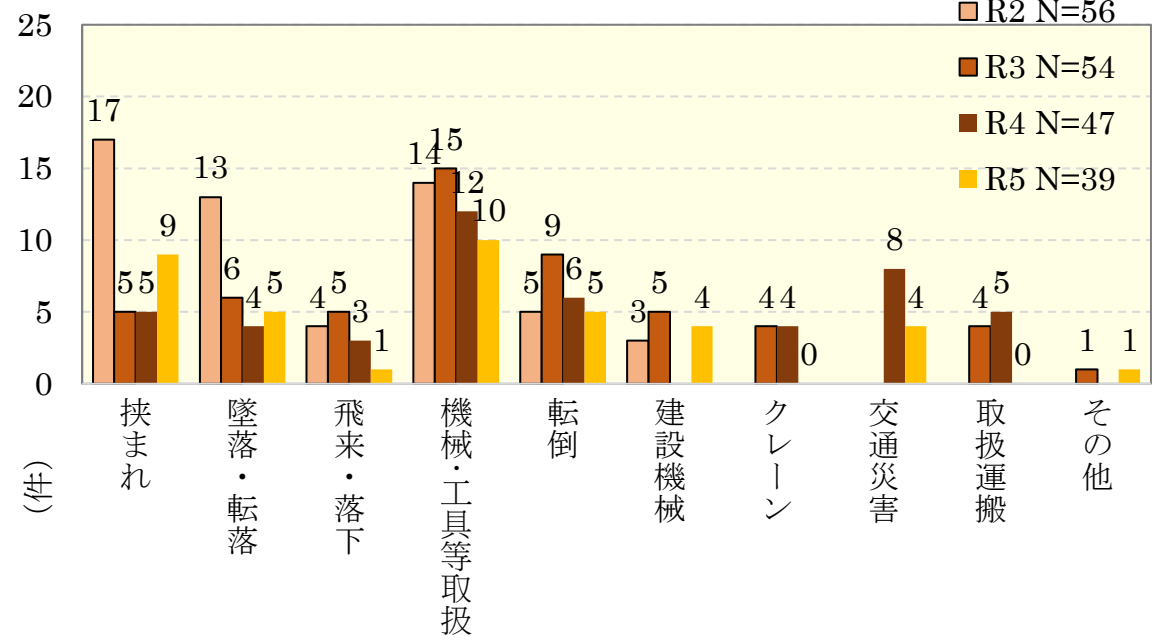
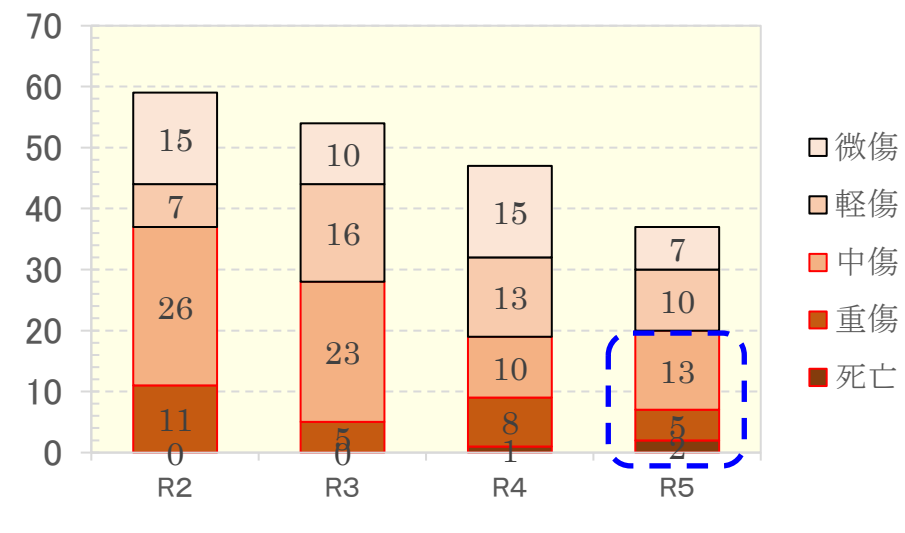


図5-3 労働災害の被災程度の推移(R2~R5)



令和5年度 東北地方整備局 工事事故発生状況【労災-型分類-発生要因別】

⑧ R5 労働災害 型分類別 被災程度別状況

・型分類における被災程度において挟まれ、墜落・転落、転倒、交通災害は、中傷以上(全治1ヶ月以上)の比率が高い。
 ・「⑦施工上の対策不十分」に伴う事故は、特に中傷以上の事故になりやすい。

図6-1 R5 労働災害 型分類別 被災程度別件数 N=39件

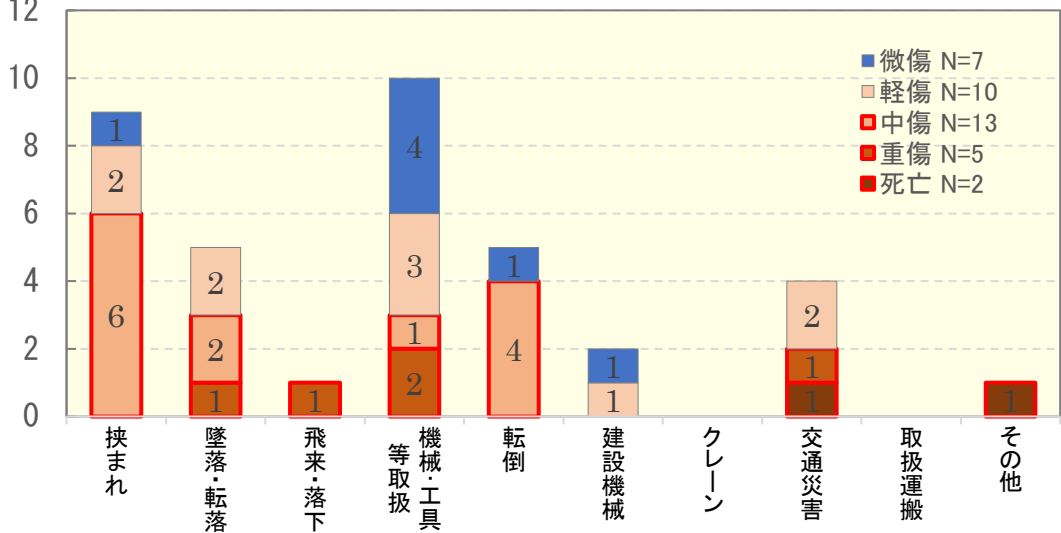


図6-3 R5 労働災害 発生要因別 被災程度別件数 N=39件

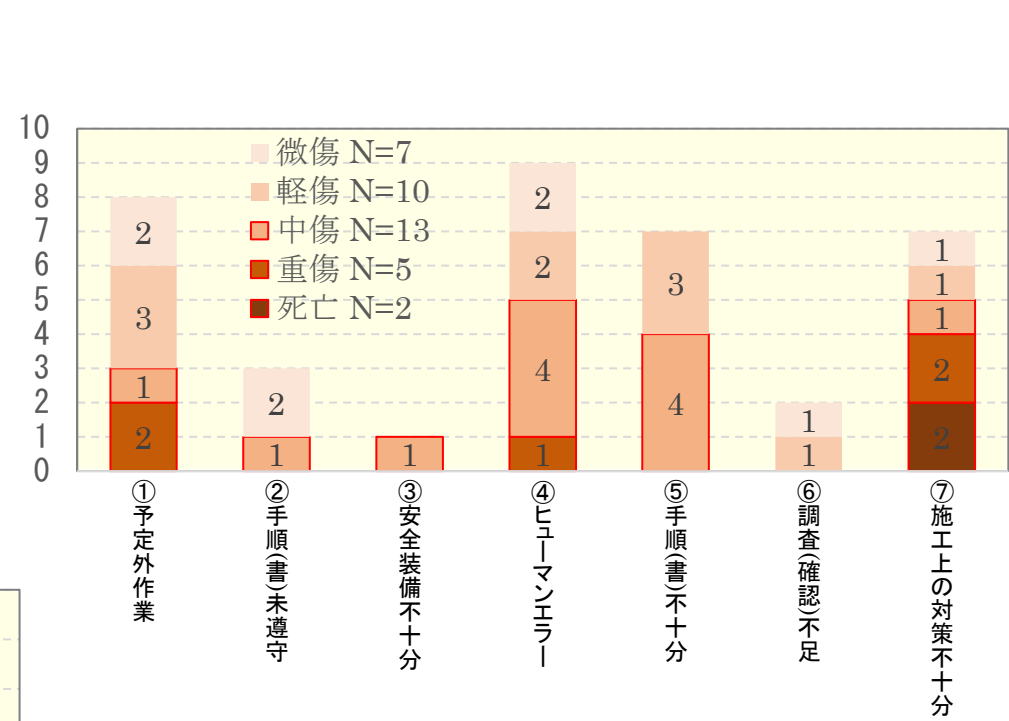
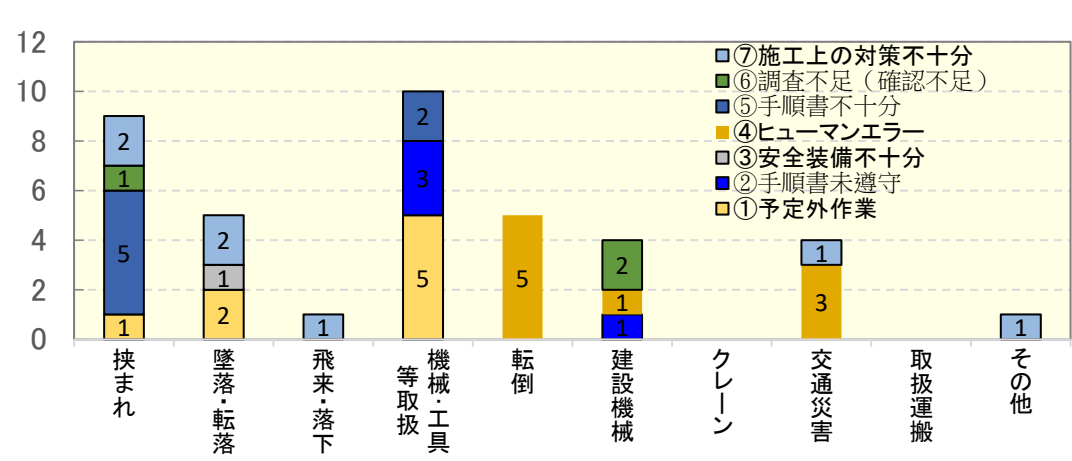


図6-2 R5 労働災害 型分類別 発生要因別件数 N=39件



令和5年度 東北地方整備局 工事事故発生状況【物損-損害物-発生要因別】

⑨ R5物損公衆 種別別件数

- ・露出線等損傷及び埋設物等損傷の事故は減少
- ・その他(公共物損傷等)の事故は増加

事故要因は調査(確認)不足によるものが多く、チェックリストでの現場確認を行わないまま、架空線の切断や埋設物損傷等が増加した。また、除雪作業に伴い、中央分離帯や道路沿いの公共物への接触なども毎年発生している。

図7-2 物損公衆 損害物別事故件数(R2~R5 比較)

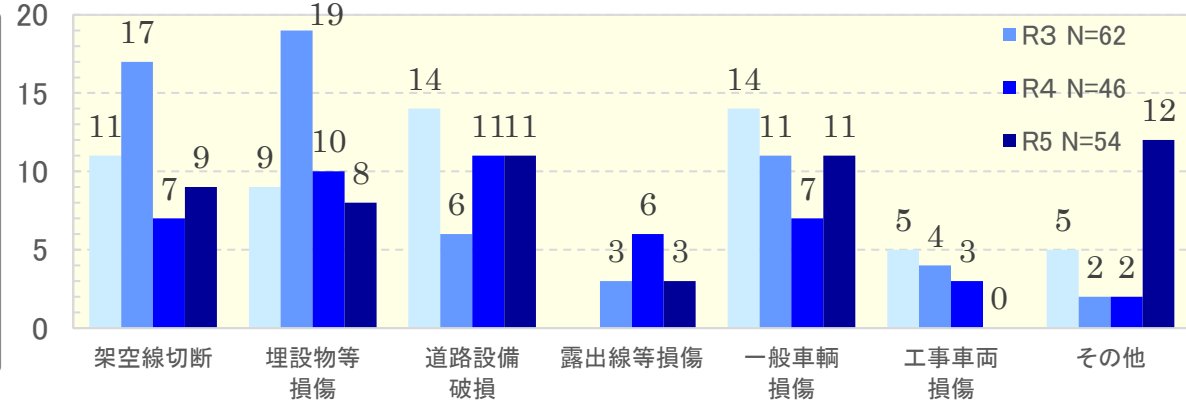


図7-1 R5事故分類別割合 N=54件

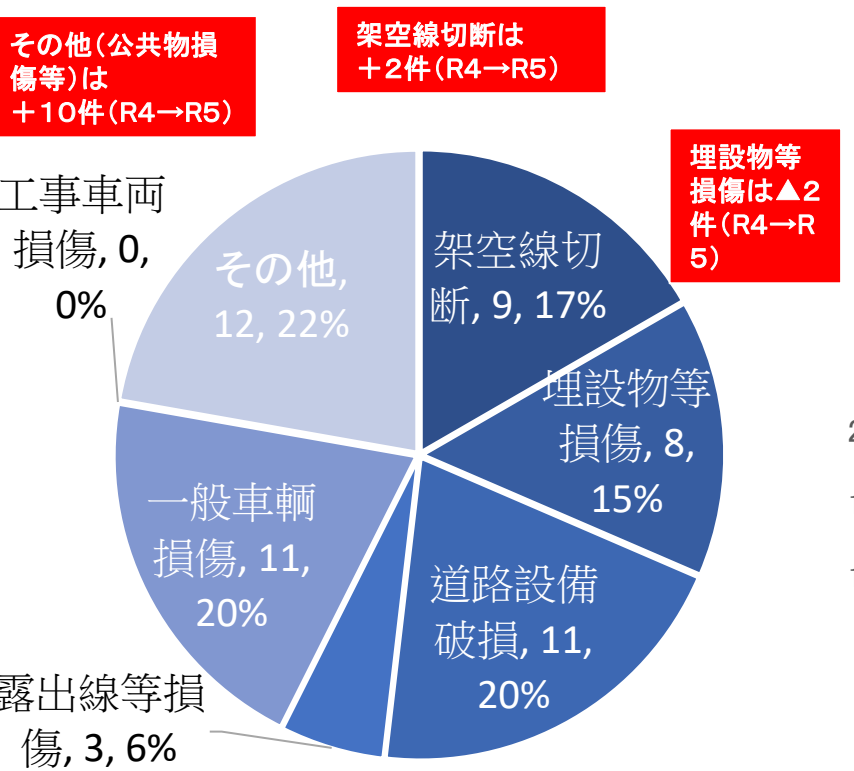


図7-3 R5 物損公衆 損害物別 原因となった機械・器具

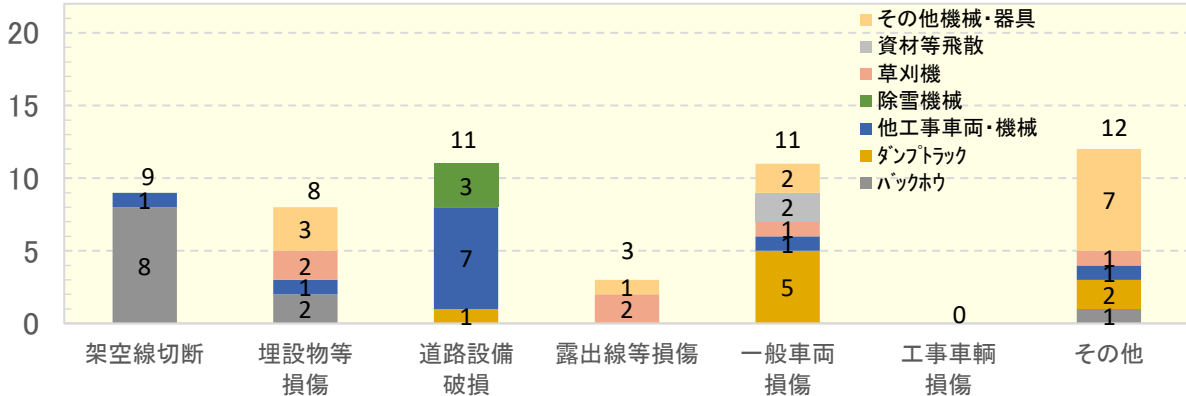
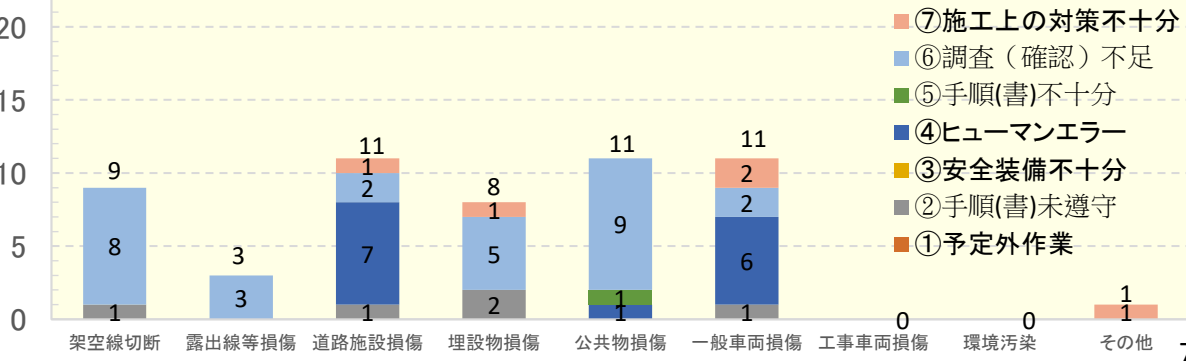


図7-4 R5 物損公衆 損害物別 発生要因別



令和5年度 東北地方整備局 工事事故発生状況【入場・年齢別】

⑩ 現場入場日別事故発生件数(労災・物損)

- ・事故関係者が現場入場してから何日目に事故が発生しているか30日毎に分けると 入場後 **30日未満で約4割**、入場後60日以内で約5割発生。
- ・30日未満を1週間毎に分けると**入場2週間以内の発生割合が約6割と高い。**

⑪ 労災被災・物損加害 年齢層別件数

- ・年代問わず事故の起因者は発生している。
- ・経験豊富な40～60代における、労働災害被災者割合は約7割・物損公衆の加害者割合は約8割を占める。

図8-1 R5 現場入場経過日数別発生件数 図8-2 現場入場から事故発生迄の期間 図8-3 労働災害 被災者年齢層別

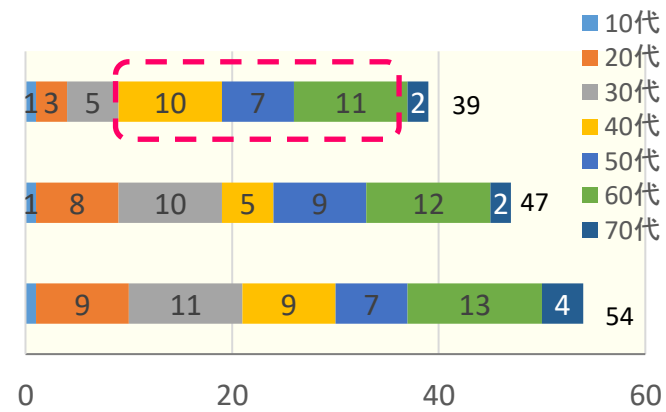
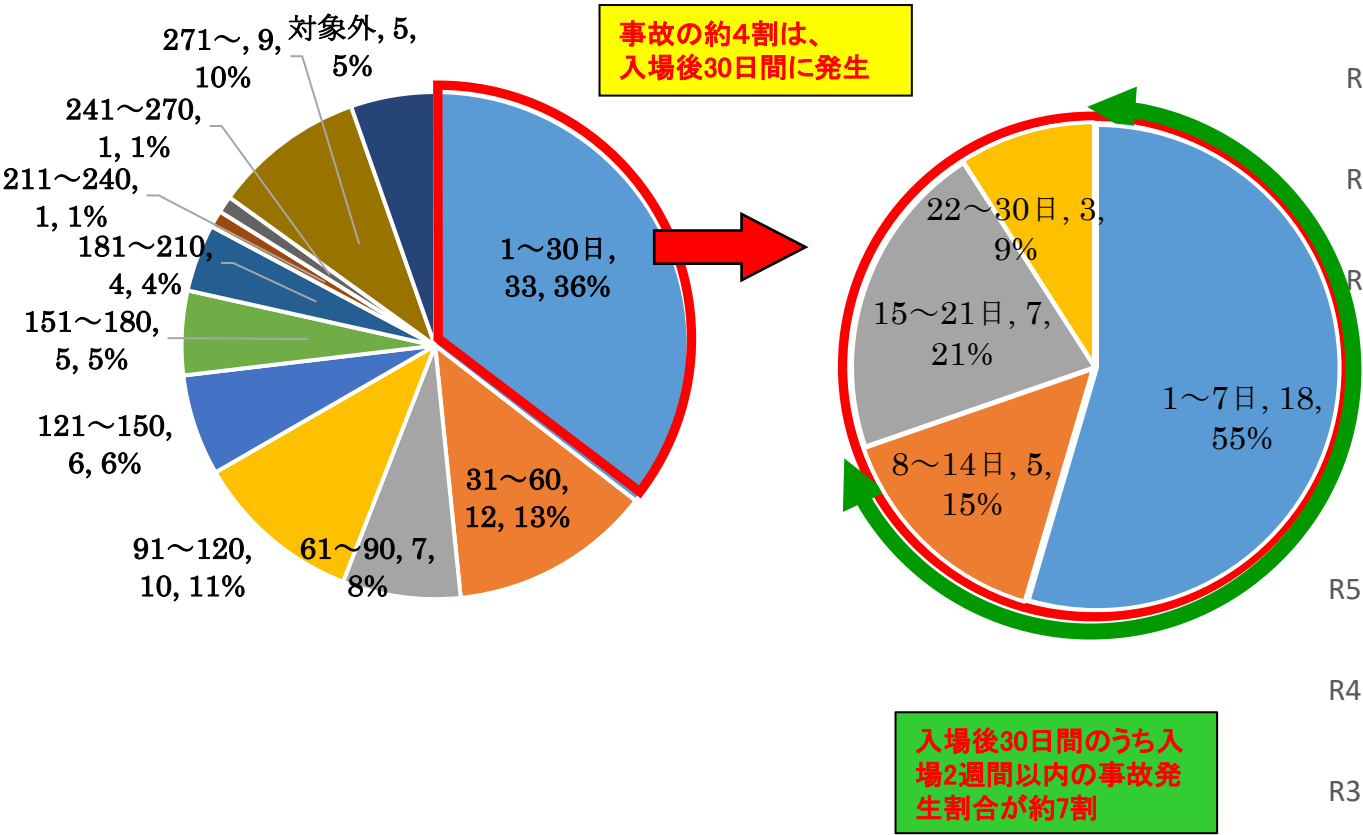
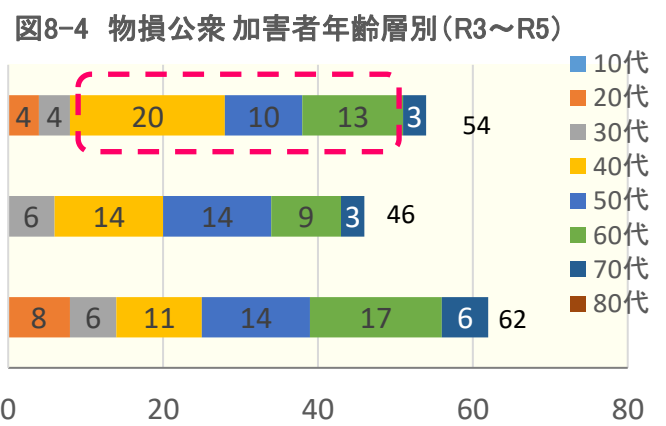


図8-4 物損公衆 加害者年齢層別



令和5年度 東北地方整備局 工事事故発生状況【交通災害別】

⑪ 交通災害 ※受注者管理責任がない交通事故を含む

・管内の工事現場付近や作業員などが関与した交通災害は95件発生
 うち、受注者の管理責任がない交通事故は83件(一般の交通事故多数)
 うち、受注者の管理責任が問われ、工事事故として扱ったのが12件(物損公衆が多い)

図11-1 R5交通事故 事故形態別件数 N=95件

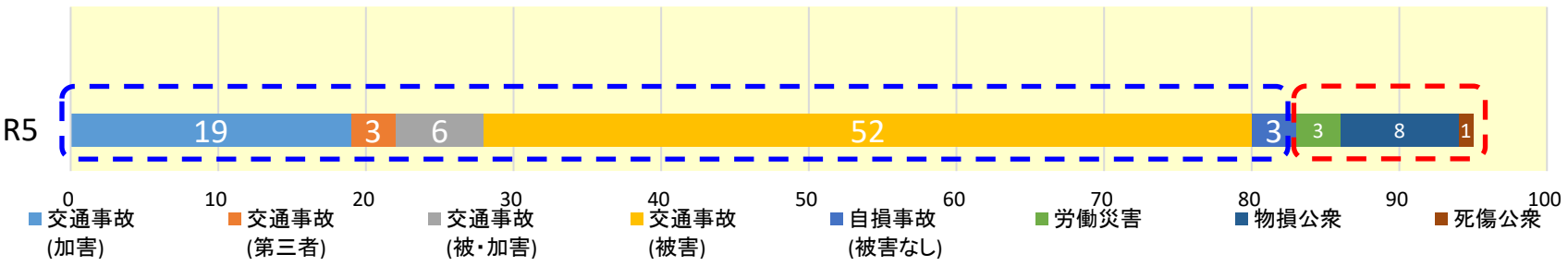
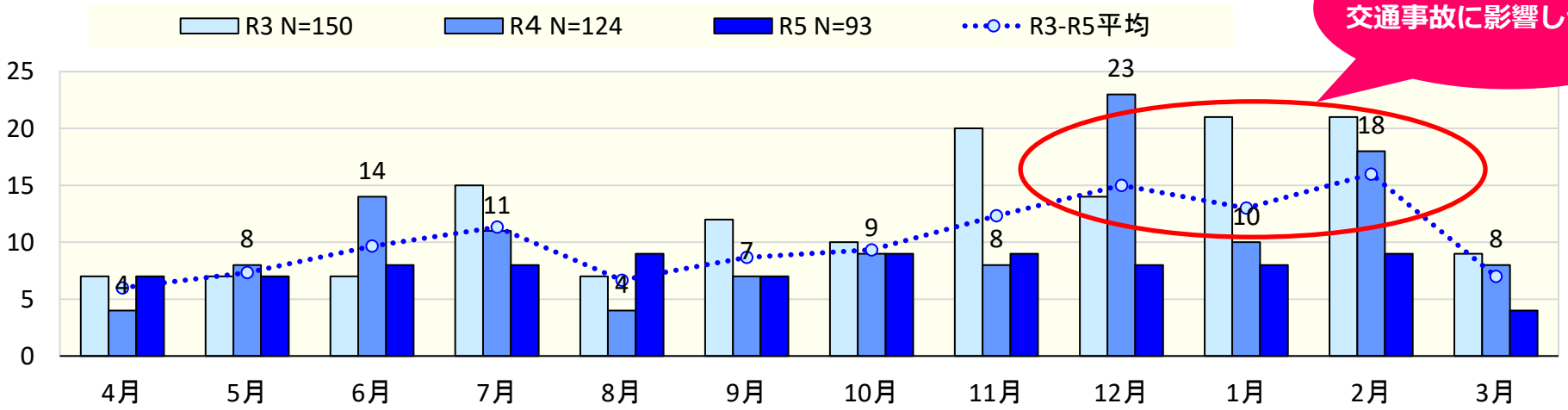


図11-2 R5 交通事故月別(R3~R5)



冬は、積雪・凍結等により交通事故に影響しやすい。

令和5年度 東北地方整備局 工事事故発生状況【熱中症】

⑫ 熱中症(脱水症、熱中症疑い含む)

- ・R5は、8月に山形の現場での発生が多かった。
- ・熱中症は年代問わず発生する。

図12-1 R5 県別熱中症発生件数 N=17件

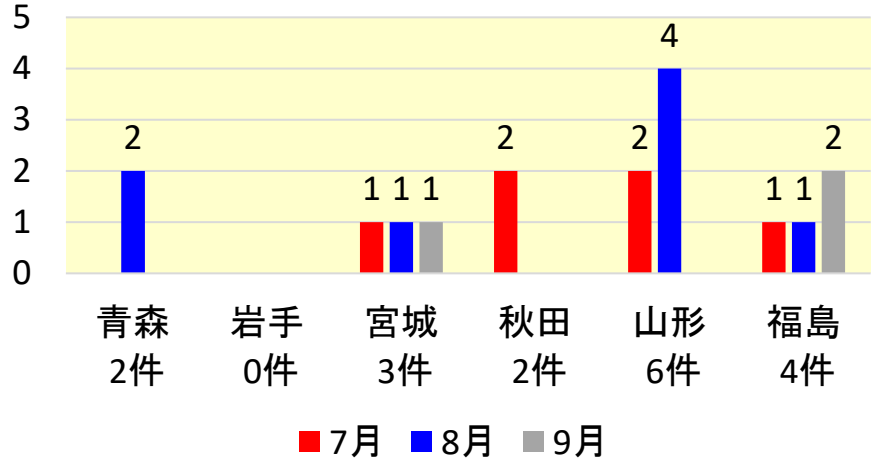


図12-2 R5 年代別熱中症休業件数 N=17件

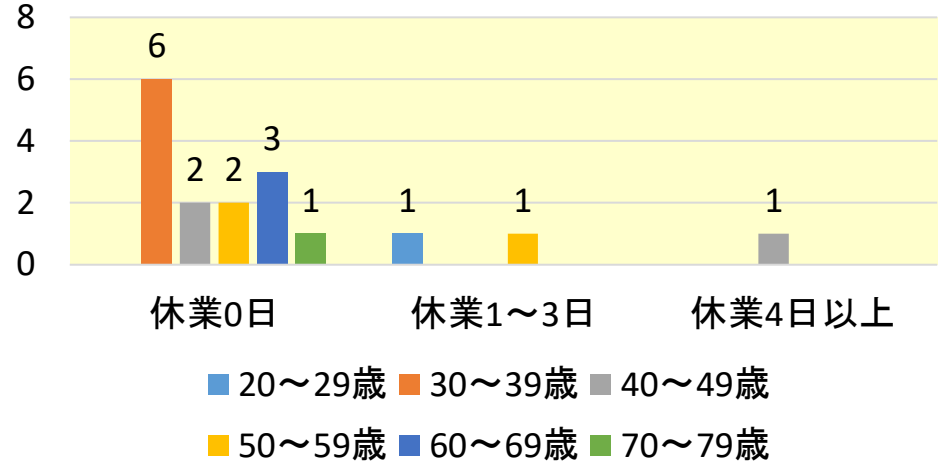


図12-3 R4 県別熱中症発生件数 N=8件

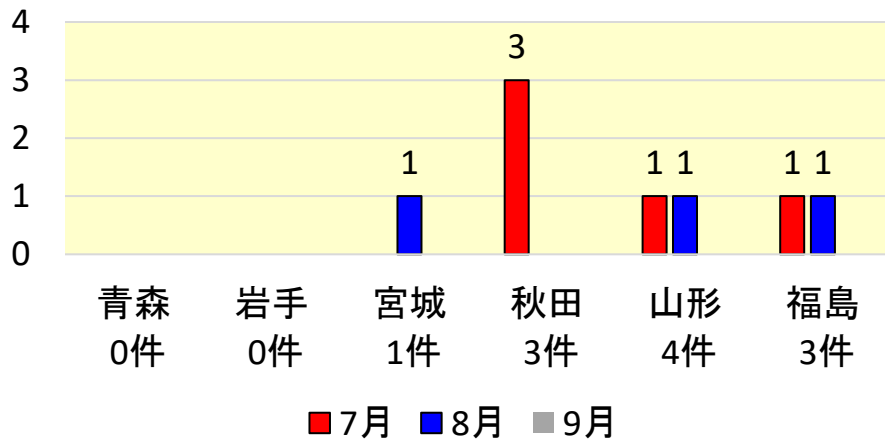


図12-4 R4 年代別熱中症休業件数 N=8件

